



**写真等無断転載禁止**

## とうとう市川市の2団体で

## 「人工干潟造成計画」に関する要望書を提出

### -市川市の「人工干潟造成計画」に物申す！part 3（最終回）-

市川緑の市民フォーラム事務局長 市川市 佐野 郷美

#### 30by30にも貢献？

前回の part 2 で、自然や生物多様性の減少を食い止め、地球規模で回復基調に乗せる<sup>ネーチャー</sup> N ポジティブについて触れたが、その実現のために、具体的な数値目標として掲げられたのが「30by30」である。これは世界各国が、2030年までに自国の海域・陸域のそれぞれ30%を、人の活動を減らしてでも自然優先・生物優先の領域にしようというもので、その領域は OECM (Other Effective area based Conservation Measures の略で、「国立公園などの保護地域以外で生物多様性保全に資する地域」という意味である) と呼ばれ、世界的なデータベースである WD-OECM (World Database on OECMs の略) に登録される。

この OECM に登録可能な場所・区域を、国（環境省）は「自然共生サイト」として今年度から募集を始め、今年度認定された185か所の合計面積は約8.5万 ha で国土の約0.22%を占め、東京23区や琵琶湖をはるかに超える大きさになった。環境省は、今年度以降も募集を続けるとしている。

図1を見てお分かりのように、現時点での日本の自然環境保全地域（生物多様性保全地域）は、国土全体の内の海域では13.3%、陸域では20.5%であり、これをそれぞれ30%以上にしていくには、作年度の自然共生サイト登録が海域と陸域を含めてわずか0.22%（海域は極端に少ない）であったので、国だけでなく地方自治体・企業・団体・NPO・個人など多様なセクターのさらなる努力が必要である。

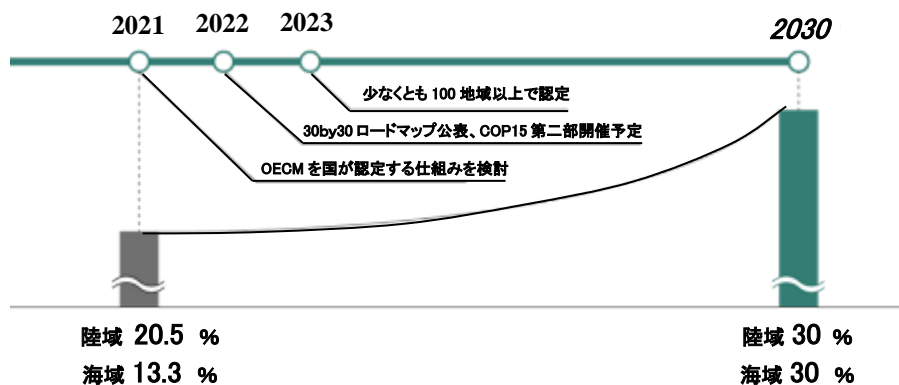


図1：30by30を実現するための日本のロードマップ（環境省HPより）

#### 市は「自然共生サイト」登録も目指しているのだから…

実は市川市は、2025年度内に現行の「生物多様性いちかわ戦略（2014年策定）」をリニューアルすると発表している。現行の戦略には「〇〇〇を市内の生物多様性を守り育てる拠点とする」と明記し、生物多様性を守る場所が示されている。一方、他の自治体の地域戦略には確かに良いことは書いてあるのだが、「どこで守るのか」が明記されていない場

合も多い。だから、市川市の現行戦略はそれだけでも評価できると思っていたのだが、どうも次期戦略策定までに「自然共生サイト」登録を目指しているようである。その姿勢にエールを贈りたいと思うし、当フォーラムとしても積極的に応援するつもりである。

だからこそ言いたい。市川市が環境省の脱炭素先

行地域指定と、その上での「C<sup>カーボン</sup> ニュートラル」実現を目指す (part1 で紹介) なら、そして同じ環境省が進める「N<sup>ネーチャー</sup> ポジティブ」「30by30」につながる「自然共生サイト」登録を目指すなら、市川市塩浜2丁目の「人工干潟造成計画」は、ぜひとも考え直すべきだ。

何故なら、浅海域への土砂投入は、それが近場の市川航路の浚渫土であったとしても大量のCO<sub>2</sub>を

放出し、すでにたくさんの底生生物や魚類などが生息する多様性豊かなC (カーボン) な浅海域を潰す事業だからである。市が目指す「C (カーボン) ニュートラル」のための脱炭素地域指定、そして「N<sup>ネーチャー</sup> ポジティブ」のための自然共生サイト登録を目指すことと、「人工干潟造成」事業は大きく矛盾なのである。

## 私達の要望にぜひ耳を傾けて！

そこで、市川市長宛に当フォーラムとNPO 法人行徳自然ほごくらぶ (以後「2団体」と記す) は連名で3月26日に「市川市の塩浜親水事業 (人工干潟造成事業) に対する要望書」を提出した。

三番瀬をテーマに活動する県内の複数の市民の会は、すでに昨年秋に市川市に対して人工干潟造成に反対するとともに、千葉県に対しては市川市の計画に対する県の厳しい対応を求めている。

市川市を中心に活動する2団体は、1993年千葉県

が発表した三番瀬埋立計画について当初から反対を表明し、2001年にその計画が白紙撤回された直後には、それぞれが埋立地を整理する中で生じる遊休地をセットバックし、埋立地の一部を再び海域環境に戻す提案をしていた (図2)。

市川市の計画に、以前から三番瀬に高い関心を持ってきた地元市川市の2団体が要望書を提出したのである。その要望書の骨子は、以下の通りである。

1. 守られた海“三番瀬”に人工干潟を造成する必要はないと考えます。
2. 市の言う「市民が海に触れ合える場所がない」というのは誤りで、市民が海と触れ合える干潟がずっと以前から江戸川放水路右岸河口にあります (図1 A地点)。毎年3月から、潮干狩り、アナジャコ採り、バードウォッチング、観察会、ハゼ釣り等で市民は海に親しんでいます。ただし、市民が安全に活動できるような対策は必要です。短期的には、ここを整備し充実させて下さい。
3. 長期的には、塩浜2丁目の埋立地 (市所有地) をセットバックして、再び海域環境に戻すような事業をご検討ください (図1 B地点)。それこそは、世界の最先端の取り組みであり、日本でもすでに狭い範囲ではありますが、そういった事業が始まっているのです。

市川市には、この2団体の要望を真摯に受け止めていただきたいと心より願っている。

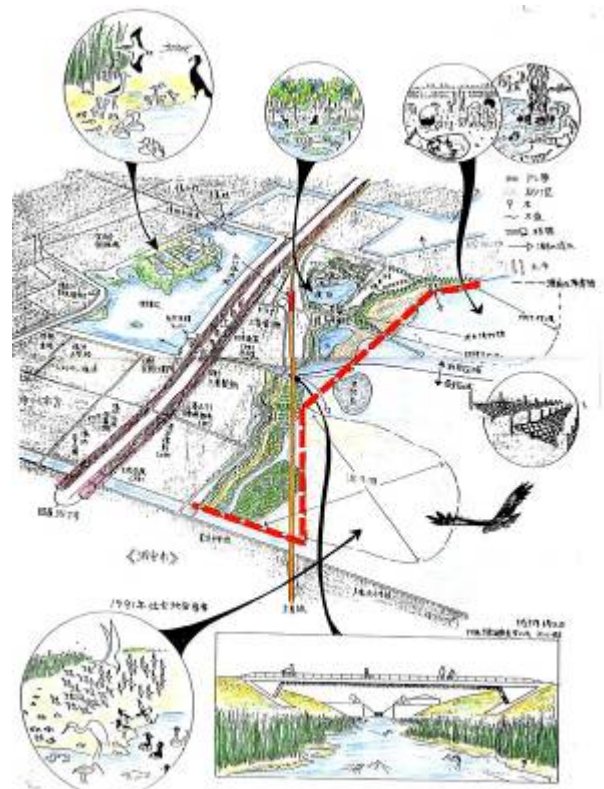


図2: NPO 行徳野鳥観察舎友の会 (現在のNPO 行徳自然ほごくらぶ) が2002年に市川市に提出した埋立地をセットバックして海域環境を再生する案



図3: すでに海と触れ合える場 (A地点) と、埋立地の一部を海域環境に戻す取り組みをしてほしい場 (B地点)

<編集部より>

・前回のニュースレター319号で part2 (前編) とありましたが、著者が再編集して、後編を合わせて part3 として今回掲載いたしました。

・この件に関連して「市川には、自然の干潟がある。人工干潟はいらない 市民団体、市の計画見直しを要望「江戸川河口部活用を」と題して、2024年3月28日の東京新聞に記事が掲載されました。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/317797?rct=chiba>

# 令和5年度千葉市谷津田・ビオトープ 活動団体意見交換会報告

ちば環境情報センター 千葉市美浜区 高橋久美子

日時：2024年2月7日（水）14:00～15:30

会場：千葉市役所

出席者：大草谷津田いきものの里から田野様、大草谷津を育む会から伊藤様、金光院 SATOYAMA 環境保全の Group から岡田様、坂月川愛好会から勝又様と高橋様、ちば環境情報センターから小西代表と高橋、バランス 21 から斎藤様と月川様、緑の環から金井様の合計 10 名

環境保全課からは、木下課長、町田主査、畑川技師の 3 名

各団体から活動報告と、市から今年度の活動団体と連携した市の取り組みについて報告があり、その後、以下のような意見が交わされました。

- ・アライグマやイノシシによる被害が深刻である。
- ・緑の環ではマツ枯れが大変になっている。
- ・どの団体も高齢化が深刻で、夏場は熱中症の危険があるので草刈りもできず、草が繁茂してしまう。大草には東邦大学の学生がサークル活動として来るが、学生は毎年入れ替わる。
- ・金光院は、70 代以上の会員たちが多く、泥の深い田の作業が負担である。企業が来て SDG s に関心を持っている。市が企業に働きかけて、企業が中心になって谷津田の保全をしてほしい。
- ・ウシガエルがいる。対策をとってほしい。
- ・6 万円の消耗品費は現物ではなく、お金でほしい。欲しい物が欲しい時に買えない。⇒ 市) 他の部署の情報を収集して改善できれば、したい。
- ・森林環境譲与税についても市民の声を聴いてほしい。

- ・刈り払い機やチェーンソーの講習会を市でやってほしい。⇒ 県の林業組合にきかないと。
- ・この前市長との話では、環境保全課は都市局や経済農政局、環境局をまたがる横断的な部署だとのことだった。⇒ 市) その場に私もいたので、よくわかっている。生物多様性についてそれぞれの局にまずは理解してもらうのが大切で、谷津田について認知してもらわねば。教育も大切。
- ・千葉市の計画は、小西さんが作った谷津田マップがそのまま使える。市の計画が実のあるものになるようにしてもらいたい。そうすれば我々の活動も人が集まる。
- ・緑の環では、今井戸を掘っている。安房高校の人が来る。
- ・草刈りは、もっと効率よく市でまとめてできるのでは？
- ・ちいき新聞に大草の短期目標で「メダカが泳ぐ」と掲げているが、大草は段差があってメダカは入ってこない。どういうことか？ちいき新聞は課で目を通してはいるはず。
- ・長期目標では「コウノトリが舞う」となっている。それは是非実現に向けて方策を立てたらどうか？

所感：どうしたら千葉市の自然が守れるか、生物多様性を推進できるか、行政としての千葉市の責任は重いと感じた。市民からも諦めずに市にはたらきかけるべきなのではないでしょうか。

## 新浜の話 74 ～元気にトラブル～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

すよ。それで、1 m 近く掘って、まだ原因のパイプまで届かない状態なんです」

地面を這うパイプラインが、池の土手越えで立ち上がっているところ。後に工事用の通路が作られ、パイプは 1 m あまりの土中に埋もれています。曲がり目の部分がこわれたか、はずれたか。

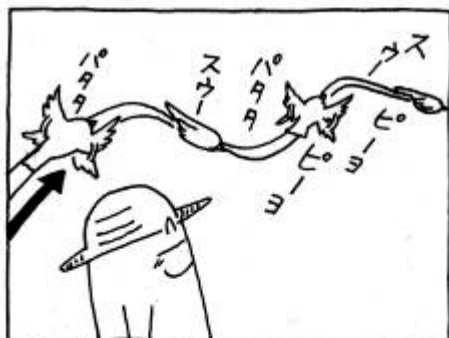
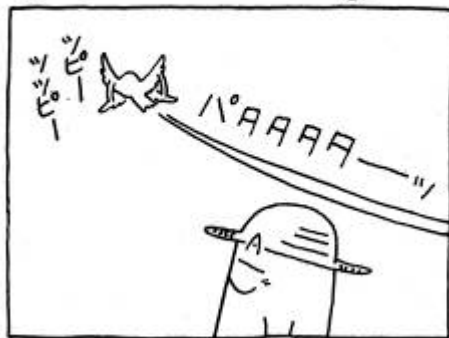
「思い出した。あそこは先につながかもしれないと T 字管をつけた。そのキャップがとれたんだ」ここの仕事。特にトラブルがあるとね」「いや、当事者としてもけっこうおもしろいですよ。初めての経験ですもの」と、男衆初年の川上さん。

「いやあ、ちょっとハプニングがありました」

1998 年 6 月 25 日、保護区の中の揚水用のパイプに新しいバルブをとりつけに行った男衆二人が、遅くなって戻ってきました。作業服がびしょぬれ。

「とりつけは順調にできたんですよ。ところが、かなり栓をしめた状態にして、しばらくしたら、手前の土の中からいきなり水が噴き出してきたんです。地面から 10 cm くらいも湧き上がっているんで

午前の部の仕事を終えた主婦パートの野本さんが、「なんだかおもしろそうですね」と目を輝かせました。「当事者以外は、ほんと、おもしろいのよ。」



午後、「温泉掘りの調子はいかが？」と電話を入ると、「掘り当てて一件落着です。やっぱり原因はキャップでした。埋め戻してしまうのが残念な気がしますけれど」 明るい声が返ってきました。

午後じゅうかかった「温泉掘り」作業で、夕方戻った川上さんと大黒柱1号の一樹君は汗びっしょり、泥まみれでした。でもこの日いちばんたいへんだったのは、留守を一手に預かった上、浦安の魚市場でアジを受け取り、福栄中学でパンをもらい、さらに資源回収センターへ段ボール出し、と軽トラックを走らせ、積み下ろしもぜんぶひとりでやった大黒柱2号の達夫さんに違いありません。

6月20日には、野鳥病院の冷蔵庫がこわれました。ガス抜けです。「こういう時にはどうするんですか」「拾うんです」 予算をとって買ってもらおう、などと考えもしないところがこわいです。わずか2日後、保護区を一巡していた達夫さんと一樹君が、「南門のところに大きいのが置き捨ててありました。それも4ドア！」と勇んで戻ってきました。翌朝さっそく拾いに行って、試してみたところ、少々音がにぎやかですが、ちゃんと冷えます。タイミングのよさに感激したり、あきれたり。

6月24日に起きたトラブルの当事者は私。青潮の用心で閉めた水門を開けに行き、「開」のスイッチを押したところ、動きません。それどころか、「故障」のランプがついてしまいました。どうしよう。SOSを出そうにも、こうした時に限って携帯電話を持ってきていません。幅3m、1トンを軽くこえる水門の手動操作はおおごと。水門の上ののぼるとハンドルはすぐに見つかり、両手を添えれば私の力でもまわせましたが、聞きしにまさるしろもの、50cm開けるのに40分、1000回はハンドルをまわしたと思います。力も時間も尽きて選手交代。真夜中の操作時でなくてほんとうによかったです。それにしても、わずか5cmほど水門を上げただけで、目でわかるほどの潮の動きが出るうれしさは格別。これもそれなりにおもしろい仕事かもしれません。

一段と数を増したカワウのコロニー以外は、鳥はぱっとしません。6組も巣を作ってくれたセイタカシギは、ヒナのみ化まで確かめられているのに、結局全滅してしまいました。それでも、雑排水を直接くみ入れている水車池のところで、ギンヤンマとシオカラトンボの抜け殻を見つけました。

トラブルが起こるたびにかえって燃えるスタッフたちがいる限り、だいじょうぶ、これからも。

<筆者より>日本野鳥の会東京の支部報「ユリカモメ」1998年8月号掲載稿を「小説家になろう」に「新浜だより1992年～2000年」として再録、さらに手を入れて本稿とした。

### 2024年度 会費お振込みのお願い

下大和田谷津田の開発問題では多くの皆様が気にかけてくださり心よりお礼申し上げます。皆様には引き続き会員さんとして応援いただきたく、会費お振込みのお願いをいたします(下記参照)。季節柄くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

2024年4月1日 NPO 法人 ちば環境情報センター代表 小西由希子

お振込は(1)または(2)①、②でお願いいたします。(1)同封の振込用紙で振り込む (2)千葉銀行 またはゆうちょ銀行の口座に振り込む ①千葉銀行 普通預金 本店営業部(店番号)100 口座番号3627678 特定非営利活動法人 ちば環境情報センター 代表小西由希子 ②ゆうちょ銀行 普通預金 店名〇五八(ゼロゴハチ) 店番058 記号10560 番号55564681 トクヒ)チバカンキョウジョウホウセンターなお、寄付される場合や複数年度の会費入金の際は、その旨を明記してください。 <会費>正会員5,000円、一般2,000円、学生1,500円、賛助10,000円

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2024年5月号(第321号)の発送を5月8日(水)10時から千葉市民活動支援センター談話室おこなう予定です。お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

【編集後記】3月3日、谷津田ビジターセンターで無農薬レモンを使ってアロマウォーターを試作しました。カキドオシやクスノキ、今年から新しく畑を耕して、ハーブをたくさん栽培し、いろんな植物で試してみたいと思っています。一緒にハーブを育ててみませんか? mud-skipper ♀



## 【谷津田・季節のたより】 2024年 3月

<下大和田町> 報告：網代春男、平沼勝男

- 3/14 アライグマ捕獲。雄の成獣 4.8Kg。今期（2023年度）10頭目、通算 54頭目。前日の13日にはイタチがかかっていたがすぐ放す。（網代）
- 3/17 森と水辺の手入れの始まる前に、水の抜けやすいY P P 田んぼ（道路側）の畦の穴の確認と水入れをして満水にした。（平沼）
- 3/23 水が抜けていて全体の1割くらいしか水なかった。泥の中にオタマジャクシが隠れていてくれれば良いのだが、多くが死んでしまったかも。全滅ではないがオタマジャクシの数を減らしてしまったかも。カヤネズミ田んぼや川沿いの田んぼは無事。もともと卵塊数は少ない。畔にはどこも水が抜ける穴はなし。冬の間の雨量が少なかったこと、特にこの一週間の好天が悪かったのかも。  
U字溝から少量の水を常に田んぼに入れる措置。かけ流し式。U字溝の土のうも最大限の大きなものにして大雨が降っても耐えられるようにして、数少ないオタマジャクシを守る。（平沼）
- 3/30 かけ流し式にした田んぼを見に行く。田は満水で一安心。オタマジャクシも少数が泳いでいた。しかし水の取り入れ口詰まっていたほとんど出ていない。たくさんのシュレーゲルアオガエルの鳴き声が谷津田にこだましていた。（平沼）

<小 山 町> 報告（た：たんぼぼ、赤：赤シャツおやじ、高：高山）

- 3/ 2 アカガエルが孵化（高） 3/9 フキノトウが顔を出す（高）
- 3/12 リスがすぐそばの木の低い位置に現れ、ほお袋パンパンの顔でこちらを見る（た）
- 3/15 イヌシデが花を垂らす、アオジの顔が黒くなってきた（高）
- 3/16 キブシが開花（高） 3/17 ケキツノボタン、ツクシなど春の草花が勢ぞろい、メジロがさえずる（高）
- 3/19 何年ぶりに林にアカゲラの姿（高）
- 3/24 卵背負ったコオイムシ、ほぼ白色の二ホンアマガエル出現。2羽のガビチョウ、目の前で声真似？の応酬。背後ではジョウビタキ淡々と鳴く（赤）
- 3/27 クサシギがつがい飛来（た）← 2月中旬からペアで行動し続けている（高）
- 3/30 アカガエルが記録的に遅い産卵、ヒキガエルが田んぼに集まって“蛙合戦”、アオジが旅立ち前のさえずり練習（高） 3/31 子どものイノシシの足跡を見る（高）。

## 【イベントのお知らせ】 主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655

<下大和田谷津田>

E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

今年は開発計画が持ち上がったため、現状、米づくりが行えない状況です。実際のイベントスケジュールは、谷津田だよりとHP (<https://www.ceic.info/>) に掲載いたしますのでご確認ください。

### ・森と水辺の手入れ

日 時：2024年 4月21日（日） 9時45分～12時 雨天中止

内 容：雑木林を維持するための低木処理や畑作業を行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

### ・第292回 観察会とゴミ拾い

日 時：2024年 5月 5日（日） 9時45分～12時 雨天決行

内 容：緑深まる晩春の谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴（通常の）、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：100円

## <小山町谷津田>

### ▼第225回 小山町Y P P 「苗代作り」

今期の苗代作りを行います。

日 時：2024年 4月 6日（土） 10時00分～ ☆小雨決行

場 所：小山町谷津田

上記に限らず、参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail; tomizo\_i@nifty.com) までご連絡下さい。

